

肺炎球菌上皮接着における Poly(I : C) の関与

川 島 雅 樹 黒 野 祐 一

鹿児島大学 医歯学総合研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部疾患学

【はじめに】 ウイルス性上気道感染症の後に、細菌感染が続発することが知られている。また、肺炎球菌は上気道の常在菌である一方で、急性中耳炎や急性副鼻腔炎の主な起因菌でもある。しかしながら、常在菌が病原菌へとなる機序についての詳細は解明されていない。近年、ウイルス感染症が肺炎球菌による下気道感染症を増強する報告もされている。今回、ウイルスの構成成分である dsRNA の合成化合物である Poly(I : C) を用いて、肺炎球菌の咽頭上皮接着への影響について、検討した。

【方 法】 ヒト咽頭上皮細胞由来の D562(ATCC CCL-138) を Poly(I : C) で刺激した後、FITC で標識した肺炎球菌を接着させ、顕微鏡下に接着菌数を比較した。

【結 果】 Poly(I : C) の刺激により、D562 への肺炎球菌の接着が促進された。

【考 察】 咽頭上皮細胞へのウイルス感染による肺炎球菌の接着亢進が、肺炎球菌が病原菌になる理由の一つである可能性が示唆された。